

平成20年6月27日

島田市内保育園保護者 様  
幼稚園保護者 様  
小中学校保護者 様

島田市教育委員会  
委員長 鈴木和子

(教育委員会からの提言)

## 我が子にブレーキを取り付けるのは誰でしょうか

私たち大人のどこかに、次のような言葉は残っていないでしょうか。

- ・ 「むやみに生き物を殺すものではない」
- ・ 「弱いものいじめをするな」
- ・ 「よそのうちへ行ったら行儀よくしろ」
- ・ 「食べ物を残すな」
- ・ 「履物はそろえてぬげ」

もっとこまごましたこともあったように思います。

- ・ 「食べながら歩くな」
- ・ 「ひじをついて食べるな」
- ・ 「布団を踏むな」 等など。

小さいときに親や祖父母から言われたこれらのことが大人になった今もなお、自分のブレーキになっているとしたら、そのブレーキはたいしたものではないでしょうか。身にしみ付いているから効き目があるのでしょうかね。だとすれば、親の私たちも、「**我が子がブレーキをかえるように**」してやらなくてはと思います。

「してはいけないこと」や「人として美しくないこと」は、わが国の文化の中から生まれて来ました。それらを「しつけ」として、親は子どもに習慣となるまで言い続けて来た歴史があります。確かに小さいときに体にしみ込んでしまった習慣は「一生もの」です。そのようにしてくれた親にやがて子どもは感謝をするでしょう。

我が子にうるさがられることを避けてしまうのか、それとも、やがて効き目の出てくるブレーキを取り付けてやるのか、親としてどちらを選ぶべきでしょうか。